

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議議事録

と き 令和7年 11 月 20 日(木)
午後1時 00 分から

と こ ろ 常総市役所 議会棟 2階 大会議室

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議会議録

令和7年 11 月 20 日(木)午後1時 00 分から第3回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を常総市役所議会棟2階大会議室に召集する。

会 議 日 程

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 協議・報告事項
 - (1) 基本目標本文(案)について
 - (2) 数値目標及びKPIについて
- 4 その他
- 5 閉 会

出席委員	秋田 そら	野村 和叶	鈴木 千彰	中島 義昭		
	岡野 一男	中山 舞香	佐賀 ターニャ	菊池 太郎		
	前田 正文	川島 宏一	玉置 一真			
欠席委員	青木 大	荒井 久美	北村 篤子	横島 智子		
	鈴木 信也	渡辺 潤子	中山 奈央			
事務局	市長公室長	小林 弘	政策調整監	斉藤 庸一	常創戦略課長	倉持 勝利
	政策統括室長	前島 淳	未来創生係長	松永 寛人	未来創生係	栗野 真実

政策統括室長 本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから、第3回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を開会いたします。本日の司会を務めさせていただきます、常総戦略課政策統括室長の前島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。初めに、お手持ちの資料の確認をさせていただきます。

・常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議次第

・総合戦略会議資料 資料1

・数値目標及び重要業績評価指標(KPI)の設定について資料2

資料が揃っているようですので次に進めさせていただきます。当会議は、常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議設置条例第6条において、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができないと規定されております。本日は青木委員、荒井委員、北村委員、横島委員、鈴木信也委員、渡辺委員、中山奈央委員より欠席の連絡をいただいております。よって、委員総数18名に対し、本日の出席委員は、11名ということになりますので、会議が成立いたしますことをご報告させていただきます。なお、本会議については、公開を原則としており会議録を作成いたしますので申し添えます。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず初めに、総合戦略会議の川島会長よりご挨拶をお願いいたします。

会 長 本日は第3回の総合戦略会議です。基本目標1から4までそれぞれのKPIを事務局で担当部局とも調整しながら作り上げていただいています。現実には各担当課が「これは簡単に到達できる」というものではないと思いますが、実現可能性や目標として適切なレベルを議論した上で、指標の項目や言葉、それから具体的なレベルについて、整理していただいているところです。目標の指標の立て方や言葉遣いについては、それぞれの分野の多くの職員や市民、企業の方々にとってできるだけ「自分事」として受け止め、貢献していただきたいと思っていただけのような表現であってほしいと思います。また、目標値についても、単なる夢の数字ではなく、現実的で、ある程度の努力と協力によって達成できるゾーンが望ましいと思います。どの項目に貢献できるかは、これからの議論になると思いますが、それぞれの皆さんが得意とする分野で、「自分事」として感じていただける指標があると思います。私自身、ほかにも計画づくりに参加している中で、作っただけで終わってしまい、実際はあまり達成できない、原因もよく分からないということが時々あります。そうならないためには、策定後も関与された皆様が引き続き自分事として感じられる項目をフォローし、市役所の皆さんと一緒に努力していく必要があると思っています。そういう目線で「自分は具体的に貢献できそうか」「目標達成と一緒に取り組めそうか」、また「目標水準として適切か」といった観点からご議論いただければと思います。すべての項目について誰かが必ず担当しなければならない、ということではありませんし、不得意な部分を無理にやる必要もありません。ただ、得意な部分については、実施段階でも貢献できるような内容となるよう、ぜひ積極的にご議論いただきたいと考えております。

政策統括室長 ありがとうございました。ここからは川島会長に議事をお渡しいたします。宜しく申し上げます。

会 長 協議報告事項に入る前に会議録署名委員を決めさせていただきたいと思います。会議録署名委員につきましては議長において指名させていただいてよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

鈴木(千彰)委員, 前田委員, 以上 2 名を指名いたします。よろしくお願いいたします。それでは議事を進めさせていただきます。議事次第 3, 協議報告事項(1)基本目標本文(案)について事務局よりご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局 説明)

会 長 ただ今事務局からご説明いただきました。本文案について、ご質問やご意見があればいただきたいと思います。今回新たに加わったのが 19 ページ目「人材の育成」ですね。企業誘致だけではなく、地域で人を育てるという視点が加わったということでした。先ほどの説明について、さらにご質問やご意見がありましたらお願いいたします。指標の議論については、この後また別の時間でありますので、その際に改めてご説明いただけたと思います。本文については大きな変更というより、新しいソフト面の視点が加わったということで、人材育成をどのような形で、誰がいつごろまでに取り組むのかという点はまた指標の問題として議論していかなければならないと思います。まちづくりはイコール人づくりだと思いますので、地域でいかに元気で生き生きと活躍できる人材を、活動とともに育てていくのかという問題だと思います。非常に重要な視点だと感じています。それでは、特にここまでご意見はないようですので、続きまして、(2)の数値目標及びKPIについて、事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局 説明)

会 長 ありがとうございます。それぞれの指標について今回いくつか付け加わってるんですね。資料の 2 の 3 ページ「アグリサイエンスバレー常総の農産物出荷者数」と「道の駅の売上額」です。それから、最後にご説明があった横断的目標についてはまだ指標や資料は特に出されていませんが、企業版ふるさと納税や社会増減、CO2 の排出量など今後提案が出されていくということでした。こういう調整というのは、各課の現在の業務状態とか、世の中の流れをうまく反映させないと全体の力が発揮できませんので、すり合わせに相当ご苦勞をいただいているのだと思います。今日はまだ目標値は出ていませんが、パブリックコメント前にメール等で知らせていただけると理解しました。ですので今回は「目標値がこれでいいか」という議論ではなく、付け加えた目標値や、他分野の横断的な目標値について、或いは、市役所側から案が出ていないものでも、「こういう考え方がいいのではないか」といったご意見があれば、忌憚のないご意見をお伺いしたいと思います。私のほうで整理しますと、目標期間は 5 年間、2026 年度から 2030 年度までで、2030 年度末時点で、この目標値が達成されるということを目指すということですよね。そして、それぞれの目標値自体は、ここに示されているように計測できるものが前提になると思います。ここから目標値として

どれぐらいが良いか、或いは先ほど出てきた新しい項目についてのご意見など、何かございましたらどうぞ自由に発言いただきたいと思います。

- | | |
|------|---|
| 玉置委員 | 前回参加できなかったのですが、前提を確認したいのですが、それぞれの指標についてはこれを使いましょうということで皆さんから賛同を得ているということでよろしいでしょうか。 |
| 会 長 | 前回の議論があつて、それぞれに対してのご意見を受けて、事務局のほうで担当課と調整し、修正されたものが今日出てるということですよ。今日いる委員の皆さんも、例えば、基本目標 1 の数値目標「子供の転入者数」というのは今日初めて見たと思います。 |
| 玉置委員 | ありがとうございます。忌憚なくということでしたので率直に申し上げますと、全体的に因果関係がよく分からないと思いました。たとえば「子どもの転入者数」が増えたら、「結婚・出産・子育ての希望がかなう」という因果関係があまり見えません。転入の理由は、子育てしやすいからだかという人ばかりではなく、家業を継ぐために戻ってくるなど、さまざまな要因があります。この指標がこの目標とどう結びつくのか、相関関係が見えにくいというのがこの項目に限らず全体的な印象でした。それから、おそらく相当考えて作ってくださったからこそだと思うのですが、目標がかなり複雑になっていると感じています。もっとシンプルでもいいのではないかとも思いました。また 2030 年までの目標にしては「来年度中にできてしまうのでは」というものも散見されます。たとえば、創業セミナーの実施回数などはこれはやれば終わりで、別に来年度すぐ達成できてしまう。それを 2030 年までの目標として掲げるのはどうなのかと感じました。ビジネス環境の整備はセミナーをやること自体が目的ではなく、その結果、創業や雇用が生まれるという循環が重要だと思います。担当課によって、目指す姿のイメージが大きく違っているように感じました。過程を目標にしているのか、結果としての“常総市の姿“を目標にしているのか、そのあたりが混在している印象です。意地悪を言っているようで申し訳ないのですが、率直な感想として申し上げました。 |
| 会 長 | ありがとうございます。おっしゃる通りで、基本目標1では子どもの転入者数が数値目標になっていますが、それが「結婚・出産・子育ての希望がかなう」を達成するための具体的な指標だとすると、子育ての満足度が上がるとそれが増えるという、この因果関係がよくわからないということですね。 |
| 玉置委員 | 私としては純粋に「子育てに関する満足度」が基本目標 1 の指標にするとすごくシンプルでわかりやすいと思います。それをあえて「子どもの転入者数」にしたのかと思いました。あとは言葉の定義がわからないところがあります。例えば「子どもまんなかまちづくり」と言っても、どうなったら「子どもまんなか」なのか、その着地が見えず、どんな指標が適切なかが判断しづらいところがあります。ただ、市長がおっしゃった方針について職員の皆さんが一生懸命考えて形にしようとしていることはよく伝わっていますし、委員の皆さん含めて一緒に考えていく部分だと思っています。「にぎわいづくり」についても、にぎわいとは“人が多いこと“をいうのか、“店が多い事”をいうのか、そのイメージが明確でないため、駅の利用者数が本当に適切な指標なのかわかりません。アグリサイエンスバレーについても、市長が議会答弁で「市内周遊の起点であり、雇用創出につながる」とおっしゃっていた点あまり指標に反映されていないように感じました。少し勿体ない印象です。また、製造品出 |

荷額の増減率なども、例えば前年が何らかの要因で異常に伸びた場合、その翌年に平均値へ戻っただけで「減」と評価されてしまうなど、評価が難しくなる懸念を感じました。全体的に項目ごとの粒度がバラついている印象があります。続いて、教育環境の整備について、私たちが常総市さんとAI教育などさまざまな取り組みを一緒にやらせていただいてますが、「学校に行くのが楽しいと思ってる児童生徒の割合」という指標は、“学校に行かない子は対象外なのか？”という疑問を持ちました。現在、日本では不登校の子が増えていますし、中にはいじめだけでなく「やりたいことがあるから学校へ行かない」というポジティブな選択をする子どももいます。そんな社会状況の中で、「学校」に焦点を当てすぎていないかと少し疑問に思いました。いうところにこだわるのかなってというのは少し疑問に思いました。さらに、7-9 ページについても、目標が“結果”ではなく“過程”になっているのではないかと感じました。また 4-2 の「地域組織の組織数」も組織が増えたら、生活環境が快適・安全になるという因果関係がこれだけではわかりにくい。同様に 4-3 のダイバーシティ&インクルージョン、多文化共生推進についても、多文化共生推進員が増えれば多文化共生が実現するという関係には見えません。本当にいろいろ率直に申し上げてしまいましたが、事務局の方にも申し訳ないと思いながら、正直な感想としてお伝えしました。

会 長

おそらく、行政の皆さんが考えている“取り組みの前提認識”と、市民目線で見たときの“言葉としてのフィット感”にズレがある、というのは十分あり得る話だと思います。行政の方々はこのまでの積み上げの文脈の中でこれを作っていて、その文脈がわかっていないと「なぜこの指標なのか」と思ってしまうのは当然ですよ。例えば、最初のほうでご指摘いただいた「子どもの転入者数」と「子育てに関する満足度」の関係、最終目標は満足度なのではないか、という整理は確かに分かりやすいとも感じました。もし構成を変えることでわかりやすさが増すのであれば、そのほうが良いのかもしれません、実際に担当課として困らないのか、そのあたりは私もわかりません。ただ、ここに至るまで相当議論がされてきており、それぞれに相当の論理があるはずですので、もし市民目線では理解しにくくても「これはこういう理由で必要なんです」というものがあれば、ぜひ教えていただければと思っています。ご指摘は、基本目標の“最上位の目標値”と、その下にある“個別の目標値”との全体的な関係性について、ということだと思います。また指標自体が途中成果のアウトプット寄り、最終的なアウトカムまで至っていないものが見受けられるという点も、その通りだと思います。おそらく「アウトカムにしなければいけない」という議論を重ねた結果、しかしアウトカムを測ることが難しく、こうした形になっている、という背景もあるのでしょう。さらに、指標そのものを“どう測るのか”という点も重要です。例えば先ほどの生産額の増減率がマイナスになったらどうするのか。生産額はマクロ経済の影響を強く受けますので、市が何をしてもどうにもならない場合が当然あります。ただ、ここでは県の増減率と比較して評価する、つまり県全体が下がるときに、それ以上に下がらなければ良い、という考え方があります。実際、指標の並びを見ると、評価の仕方が統一されていない印象を受けますよね。単純に「上がっていれば良い」「下がっていれば悪い」ではなく、世の中全体が下がっているときに“どれくらい踏みとどまっているか”を評価するという視点も必要です。また、他の項目についても、いわゆるベンチマーキング、具体的な比較対象やロールモデルを設定して「そこより上を目指す」といった考え方があっても良いと思います。増減率も、1 年ごとの変動が激しい場合は、年次の単年評価ではなく、3年平均で評価する方法もあり得るはずです。今回の指標には、値が大きくぶれそうなもの、市役所が頑張ればすぐ達成できてしまいそうなもの、そうではないものが混在している印象があり、そのあたりが課題だと感じました。一方で、多分市役所側の立場にたてば、「それは測れない」「5 年で成果が出るとは限らない」といった現実的な制約もあると思います。理想形であるアウトカムを置きたいが、現実的には難しいという葛藤の中で今の形に収まっているのだらうと理解しています。そうした背景も踏まえつつ、どこまで理想形に近づける構成に変えることができるのか、その余地があ

るかでしょうか、議論のポイントになるのではないかと思います。難しいところではありますが、そういった議論があった上でこの案が出てきてるように感じます。どうぞ。

事務局

構成を変えることについては、まったくやぶさかではありませんし、前向きに検討していきたいと考えています。最初にご指摘のあった「子育てに関する満足度」については、私自身も数値目標にしてもよいのではないかという思いがずっとありましたので、その点は改めて議論させていただきたいと思っています。また、創業セミナーの回数についてご指摘がありました。実は今日の前段で川島先生との事前の打ち合わせの中でもこの点をお話しておりまして、それまでは“新規事業者数”を指標に設定していたのですが、妥当な数字が出せないという話になり、川島先生からもご指摘をいただいたところでもありました。まさに今日のご指摘と重なる部分ですので、創業セミナーについても、例えば今年8回実施しているものを5年間継続し、累計40回という目標にするかどうか、そのままでよいのか含めて再度確認していきたいと思います。また、後ろのほうにある「多文化共生推進委員の数」や「地域組織の組織数」についても、議論の中では本当にこの“組織数”でよいのか、あるいはもっと市民を巻き込む観点から、“加入人数”のほうが適切ではないかという意見もありました。多文化共生推進についても、本来であれ委員の数ではなく、その推進によって“どういう事業が生まれるか”というアウトカムを見なければならぬという議論がありました。ただ、現時点では委員数を目標にしたという経緯はあります。繰り返になりますが、時間的に可能な範囲ではありますが、今日いただいたご意見を宿題として、どこまでお応えできるか検討してまいりたいと思います。

玉置委員

ありがとうございます。商工観光課さんとよく一緒にお仕事しているので、「誰がこれを言ったのかな」まで何となく想像がつくところもあります。弊社でも同じなのですが、回数を目標にすると、その数字に縛られてしまって大変になる、ということよくあります。また、多文化共生推進委員の数についても、今のお話を聞くと増やすのはかなり難しいということなので、そこを目標にしてもよいとは思いつつ、たが“多文化共生推進員が増えると、市民の生活がこう変わる”という根拠をしっかりと補足していただけると、たとえ指標がこれであっても納得感は高まるのではないかと思います。

会 長

おそらく議論が、だんだん“すり合わせのレベル”に近づいてきているので、枠組み自体を大きく変えることは難しいのですが、今ご指摘いただいたように、行政の推進というのは直感的には「この数が増えればかなり効く」と思われる一方で、本当にそれだけで文化交流が進んだといえるのかまでは保証できない、という部分があります。本来であれば、多文化共生推進委員の具体的な活動内容-たとえば、1人あたり年間どれくらい活動するのか、どのレベルの取組みを担うのかがある程度示されていると、人数の目標が20人から40人に増えるという場合、単純に「倍の活動量になる」ということが想定できます。そうすると、地域で生じている様々な課題、例えばコンフリクトが緩和されるとか、外国の方や子どもたちが言葉の壁を越えて地域参加できるようになったといった、最終的に望ましい状態との距離をどれだけ埋められるのか、といった議論が可能になります。ですので、いまの指標は少し“淡泊すぎる”印象があり、もう少し「どの状況を、どこまで解決しようとしているのか」という説明があると、理解もしやすくなるのではないかと思います。

玉置委員

これは、“見せ方の問題”なのかもしれません。例えば、海外国籍・外国由来の方が何人いるのに対して推進委員が1人、というように示されると中身が見えやすく納得感がありますが、数字だけで21人と示されると、「これで正しいの？」と感じてしまいます。思いは同じでも、

どう伝わるかで印象が全然変わってくるということです。例えば、今 100 人に 1 人しか推進委員がいないところを、30 人に 1 人にするといった具合に示されると、厳しいかもしれませんが、目標のイメージがつかみやすい。5 年間でまずはそこを目指して、さらにその先も頑張っていく、そういう課題の解決に着実に近づいていて、かつ現実的で、少し高めのハードルになっているという感覚が必要だと思います。現状の表記だと、そのあたりの“距離感”や“意味合い”が読み取れないので、そこがもったいないと感じています。

事務局

前向きな補足は入れ込んでいこうと思います。

鈴木委員

今日具体的にこの KPI のご説明をいただきまして、まず設定項目が多いというのが第一印象でした。項目が多いので、これから 5 年でどこまでできるのかとなると、かなり苦しいかなというのが率直な感想です。私もまだいまだに企業人なので、企業が目線で見ると、やはりこの項目群のなかで、できるところから優先順位をつけてさっさと進めたほうがいいかなと思うわけです。数値はあくまでも後からついてくるもので、もちろん最初の目標設定は必要なんですけど、先ほども玉置さんがおっしゃった通り、数字に縛られすぎるところがあります。ですので、最初はちょっとラフ気味でもよくて、ある程度見えてきた段階で数値目標にしていって、という形でもいいのかなと考えています。それともう 1 つは、いま私の活動の中では、行政の方たちにいろいろご協力をいただきながら進めているので、行政ができること・できないこと、民間ができること・できないこと、これを関わってくれる方々としっかり話し合う必要があるのではないかと、我々の中では何となく役割分担ができていくのでうまくいってるところもあります。具体的に言うと、4 ページの 2-2 の①「地域資源の最大限の活用」です。今、我々は歴史講座をやってみて、実際に地域でどんな歴史があったとか、将門や千姫は当たり前のようにメジャーな存在になってるんですけど、それ以外にも「実はこういう人がいた」「こういう出来事があった」ということを、いろんな方たちにご協力いただきながら進めているのが現状です。歴史も地域資源だという観点で取り組んでいます。我々は例のごとく、民間目線でやっているので、行政から見たら「こういうふうにやってくれたら地域資源化できる」というアドバイスだけでもありがたい。そういう方と一度一緒に会って、この KPI の中に織り込んでいくというのも 1 つの案ではないかと思っています。続きまして、6 ページの②「創業セミナーとビジネス環境の整備」なんですけど、こちらも我々は民間の活動なので、やはりマネタイズしていかないと継続ができない、講座も長期のものと短期のものに分けて、マネタイズできるようビジネスモデルを作っています。この創業セミナーは、私はまだ参加していませんが、講師陣やプログラムを見ると、かなり綿密な計画でやられているなという印象です。おそらく受講後にどういうフォローがあるのかとか、いきなり大きく行かなくても「小さく始めるためにはどうしたらいい」というフォロー講座みたいなものがあってもいいんじゃないかと思います。ちょうど今月から始まった商工の講座があって、私もこれに非常に興味がありまして、ネットビジネスの方たちがやると多分こうなるんだろうな、という印象があります。こういう形で 1 つの流れを作っていくのもありかなと思いました。最後の項目になりますが、9 ページの 4-3 のダイバーシティの件で、私は多文化共生推進委員なんですけど、今の推進委員の方々とは全然違う行動をしています。このエリアはベトナム人が多いので、そこに特化したいと思い、こちらで会社をやっているベトナム人の代表の方と組んで、「ベトナムをもっと知ってもらおう」という講座を開いています。まだ参加は日本人だけなんですけど、多文化というのはなかなか受け入れがたい部分もあると思うんです。この地域の特性もあると思いますので、これは時間をかけてやりたいと思っています。ゆくゆくは、ベトナム人も入れて、日本人と意見交換できるレベルにしたいと、4 月からコツコツ続けて、9 回か 10 回目かになりますかね。11 月 30 日に市民ホールでもまたやります。こういうふうにお互いの文化や考え方を知ってもらうためにいろんな方法を考えて推進している段階です。逆に言

うと、我々にできることもあるけど、できないところもある。そこを行政にフォローしてもらいながらやっていけば、一つ一つ成果が出てくるのではないかと思った次第です。以上でございます。

会 長

私の目線で言うと、非常に重要なご指摘をいただいていると思っています。それぞれの指標について、実はパートナーというか、協力していただけたらいいなと思うんです。先ほど観光のところで、観光客の入れ込みに歴史講座が影響するというお話がありましたよね。講座に来てくれた人がその地域に興味を持つかもしれないし、講座があったおかげで歴史的な物語が発掘されて、それが評判になって人を呼ぶかもしれない。そういう相互作用が起こってくる。おそらくそれは、先ほどおっしゃっていただいた観光、創業セミナー、多文化共生、それぞれについても当てはまることです。可能であれば、指標ごとに「どういったパートナーと、さらにこの具体的な活動を深めていくのか」を整理できたらいいなと思っています。担当課の方々は、それぞれ熱心な方や協力できるパートナーをご存じでしょうし、そういった方々をうまく取り込んでいくことを、この指標体系の中にも書いておけると素晴らしいなと感じます。もちろん、全部完璧にやってくださいと言っているわけではありません。できることをやればいいんですが、もう1つ、これどうしようかという点として、先ほど「数値は後からついてくるので、いま全部決めなくてもいいんじゃないか」というご意見もありました。これは根深い問題ですね。というのも、この総合計画自体が「とりあえず5年先の数値は作りましょう」という前提で組み立てられているので、まったく別の提案になるわけです。ただ、この数値というのが、この会議で出た意見と市役所側のすり合わせで決まってしまうというのは、少し巻き込みが足りない感じがしますよね。本来、数値自体の計画に関与するということは、関与した側が“自分ごと化”することに繋がるわけです。その意味でも、数値の持つ意味合いについて、もっとフレキシブルな性格づけができると、画期的なものになるかもしれません。今の社会は何が起こるかわかりません。来年、大きな戦争が起きるかもしれないし、突然大地震かもしれないし、気象変動もどうなるかわからない。そういう中では、固定性をそんなに高くしないという考え方もある。玉置さん何かご意見ありますか。

玉置委員

鈴木委員のお話は、すごく芯を突いていると思いました。鈴木委員からこの意見が出たのは、おそらく目標値が、行動目標、状態目標、結果目標の3種類が混在していることが原因ではないかと思っています。私が思うのは、総合計画というのはどちらかというと、こういう状態になったらいいという目標を書くものであり、鈴木さんが仰るような行動については、総合計画に基づいて各課で立てられる目標だと思います。今はおそらくそれが混在していることで、私も含め委員の皆さんもどういう文言を入れるべきかが、わからなくなってしまうというのがあります。これ実際には、今までの総合計画や他の自治体の総合計画というのは、どういう目標が書かれているんですかね。確かに、カテゴリーによって変わるというのはありますよね。鈴木委員が仰っているのは、大きい目標に対してこう動きましょという行動目標まで総合計画で書いていくということで、それはすごく私も感じました。

会 長

目標設定について、性格を結果目標・状態目標と分けて、それに向けた行動をパートナーと具体的にさらにブレイクダウンしていくような議論が理想的だと思います。高すぎる目標を設定すると、行政側のモチベーションが下がる恐れもあるため、一度設

定した目標を柔軟に調整することは、ありだと思います。目標を達成する過程で変更があっても問題はなく、その過程がいい加減にならないように意味づけられれば、反対は少ないでしょう。これまでのやり方は、ある時点で決めた後は、行政側に任せて、毎年報告を求める形でした。毎年そのパートナーと話し合いながら、行動目標を修正し、最終目標をさらに引き上げるなど柔軟に対応する「ローリングモデル」が望ましいと思われます。行政側の負担が大きくならないよう、市民の力を借りるという意味では、それぐらいの柔軟性があってもいい気がします。全部について柔軟性を持たせる必要もなく、ある程度決めるべきものもあると思いますが、市民側のパートナーが見えるようなところは柔軟なアプローチを取り入れることが良いと思います。

中島委員

前回は公務のため欠席となりお詫び申し上げます。私としては、自分が推進している 2-2 の②の都市間交流拡大、新たな人の流れの創出について、これからの常総市にとって大切なテーマの 1 つだと思っています。以前、議会の一般質問で、友好都市のメリットを掘り下げた際、本質は単に市民同士が交流するだけではなく、地域の資源や知恵を共有し、お互いに発展することにあると確認いたしました。これは防災や文化振興といった常総市の課題解決にもつながると感じています。先ほど事務局からお話がありましたが、近いうちに千葉県山武市と友好都市を締結する予定です。山武市とは平成 31 年から防災協定を結んでおり、職員同士で既に交流が進んでいます。山武市は九十九里海岸のほぼ真ん中に位置し、自然や海の恵み豊かな素晴らしい都市だと聞いております。そのため、まずは山武市との連携を軸に、防災や地域資源を生かした体験交流など具体的なプロジェクトをスタートしてほしいと思っています。都市間交流は、観光客や交流人口、リピーター、移住予備軍などに対して自然で効果的な手段だと考えています。特に、この交流を通じて関係人口を育み、移住・定住促進につなげることが非常に重要だと認識しています。

会 長

ご指摘のとおり、個々の交流活動が観光客の入れ込みや定住促進に影響を与えるなど、相互作用があると思います。常創戦略課と商工観光課と一緒に、地域のPRを行っているということですね。都市間交流は観光のみならず、農業の産出額などさまざまな分野に効果をもたらす可能性があります。常創戦略課が主導しているということは、庁内のさまざまな関係課と連携、効果を生み出すという意味でもありますよね。この点を意識すれば、様々な効果が相乗的に増幅されると考えています。ただ、現段階ではその戦略性が十分に書かれてないと感じています。例えば事業が進む中で「どれを先に実行し、どれを後回しにするか」というように、手持ちの資源を一気に出さずに、効果的に活用する必要があると思います。この5年間で戦略性をもって、優先順位をつけ、段階的に実行するということです。そんな戦略的な視点が必要だと思いました。

玉置委員

中島委員に伺いたいのですが、この都市間交流・姉妹都市協定が今度結ばれるということですね。一般市民目線で申し上げますと、協定が結ばれることによりどうなるのが、あまりわからないのですが何が起こるのでしょうか。

中島委員

防災や文化振興、そしてお互いの地域資源や知恵の共有が都市間交流の本質だと思っています。具体的に何が起きるか現時点で断言することは難しいですが、今後は交流人口を関係人口に変えていき、都市間交流を通じて、お互いの人々が町に訪れ、良さ

を知り、仲間としてかかわることで町がより良くなっていく、最終的には移住・定住に繋げていくということです。これからメリットも精査しながら、この先のことを、職員さんと一緒に考えていきたいと思っております。

事務局 この都市間交流はまさに我々が担当しているものです。今年度だけでも、お互いお祭りへの出展や、花火大会に招待をして多くの方に来ていただきました。今週末も山武市で産業まつりがあるので、商工観光課が常総市のPR、物販をおこなう予定です。やはり行政職員からすると、この協定が後ろ盾となり、事業が進めやすくなるのではないかと感じています。協定を結ぶだけではなく、結んで何やるかというのが非常に大切になります。行政同士の交流だけでなく、市民レベルでの交流が求められると思っていますので、我々もその辺を意識して動いているところでございます。

玉置委員 ありがとうございます。なかなかイメージがわからなかったのですが、大変よく分かりました。

会 長 防災の分野では、よくデータのバックアップが行われます。万が一こちらのシステムが動かなくなった場合、住民情報の出し入れができなくなり、さまざまな関係データが使えなくなってしまうので常にバックアップをお願いしたいと思います。相手側も、被災した場合にはこちらがバックアップを提供するというような協力体制があることも理解できます。その点をしっかり組み込んでいただけると、非常に納得感がありますね。

前田委員 確かにわかりにくい部分はあると思いますが、このベースになっているのは国の戦略ですよ。例えば、子どもまんなかまちづくりや少子化対策もその戦略に基づいており、それをもとに県の計画があり、さらに市町村の計画が作られていくという筋があるわけです。その文脈がうまく伝わらないために、目標値がわかりにくくなっているのではないかと思います。おっしゃるとおり今の段階では必ずしも数値目標を使わなくても良いのではないかと考えています。まずは、こうあるべきという姿があり、それに向けて5年間進んでいくわけですから、その中で数値目標を設定していくのも遅くはないと思います。最終的には、こういう姿のまちづくりを実現するために、何を伸ばすべきか、何をすべきかという方向性が見えてくれば、年ごとに見直しを行って、その結果として数値目標を変えることもできるはずです。会長にも責任があると思いますが、大学の先生や有識者の方々が「KPIを作りましょう」と言った場合、これは義務みたいになってしまいます。そうではなく実際に計画を推進し、市民や国民にとって住みやすいまちづくりを目指すことが大切です。例えば少子化という大きな問題がありますが、それだけでなく人口減少も今後の課題として必ず出てきます。それをどうにかしようというのは現実的に難しいと思いますが、外国人の受け入れや多文化共生といった問題も絡んでくるわけです。だからこそ、あえて「こうしなければならない」と考えるのではなく、目指すべき社会がどういうものなのかを明確にして、それに向かって進む形で最終的な結果を出すことが大事だと思います。前回も同じことを言ったような気がしますが、その方向性で進んでいけばいいのではないのでしょうか。

会 長 目標値の性格について、もう少し丁寧に伝えるべきだと思います。前田委員がおっしゃった通り、国の政策の文脈を踏まえたうえで、それをうまく取り入れることが前提となります。それを基に、目標を設定する柱立てを行っています。目標値そのものに

ついてですが、必達目標、つまり絶対に達成しなければならないというよりは、関係者が共通して目指すべき方向性、みんなで目指していくべき到達点として考えています。そのため、世の中や社会の変化に応じて目標の水準が変動したり、時には上がったたり下がったりすることもあります。もともとの目標設定の定義を修正する必要があることも考えられますので、その性格をしっかりと伝えることが重要だということです。一方で、あまりにも目標があいまいになってしまうと、数年後に振り返った際に「忘れてしまった」となってしまう可能性もあるので、仕組みとしてある程度の枠組みが必要です。例えば、途中で振り返りを行う会議を設けるとか、進捗をチェックする仕組みが必要だと思います。また、最初にパートナーとなる民間の方々を決めて、協力しながら進めていくことも大事だと思います。私がよく知っていることと、自主防災組織の結成率について現在結成率が69%ですが、100%を目指すのはかなり厳しい現実があると思います。この問題を一緒に考えてくれる人としては、例えば小学校区のPTAの方々や防災士のリーダー、民生委員、消防団の方々など、地域で協力し合える人たちと一緒に進めていくことが重要です。この目標設定をきっかけに、皆さんが「一緒に頑張りたい」「どうしたら達成できるか一緒に考えたい」という気持ちを引き出すことができると、具体的なアクションに繋がると思います。行政だけが一方的に「これが目標だ」と設定してしまうと、例えば突然80%達成を目指せと言われても、現場では「それは無理だ」となり、結局進まなくなってしまうことがあります。そうならないように、目標設定をより現実的で、皆さんが納得し、協力していける形で進めていきたいというのが私の考えです。

中山委員

資料の6ページに記載されている「担い手農家数」についてですが、このまま農業の高齢化が進んでいく中でこの数字を目標値として設定するのは一見良さそうに見えますが、少し疑問に感じています。農業従事者の減少が見込まれる中で、このままで良いのかという素朴な疑問があるんですね。以前、石岡市か茨城県の事業で農業を始める方に向けて移住支援の補助事業があったかと思いますが、常総市でも同様の事業があれば、農家数は増加する可能性があるのではないかと考えました。そのような施策があるかどうか、気になっております。次に、9ページの「多文化共生推進員の数」についてですが、現状21名となっていますが、単純に人数を増やせば良いというわけではないと思います。例えば、私の娘が通っている園では、8カ国以上の外国籍の子どもが在籍しており、日本人の子どもよりも外国の子どもが多い状況です。こうした多国籍の環境の中で、文化や言語の違いにより、コミュニケーションが難しくなる場面も多くあります。私自身も、親子遠足の実行委員長として活動していますが、伝えることの難しさを感じています。園には通訳の方がいますが、書類を配布しても、参加申し込み書がなかなか返ってこないこともあります。こうした中で、今後ますます外国からの方々が増える中、文化の違いや言葉の壁を乗り越えるために、単に外国人を歓迎するだけでなく、日本の文化を理解してもらうための取り組みが必要だと痛感しています。そうした教育的な支援を進めていくことが、より良い多文化共生を実現するために不可欠だと思います。また、子育てをしている中で感じたこととして、児童館が水海道に集中している現状があると思います。私は子どもが2人いますが、車で出かけるのも一苦勞で、子育ての相談事などで出かけたとしても、なかなか難しいことがあります。そのため、石下方面などにももっと児童館を増やしていただけると、より市民に寄り添ったサービスが提供できるのではないかと感じています。いまま児童館の移動サービスが年に1回程度行われていると伺っていますが、その回数を増やすことなども、地域住民の定住促進に繋がるのではないのでしょうか。さらに、イベントについてですが、単に回数をこなすだけではなく、その質や満足度、リピーターの数なども大切な指標だと思います。当

農園では、食育イベントや子ども向けのイベントを実施していますが、心の動線を意識したイベント作りが必要だと感じています。今後も市の後援を受けて食育に関する活動を進めていきたいと考えており、例えば「子どもまんなかまちづくり」やアグリサイエンスバレーの6次産業化にも絡むような活動を視野に入れています。こうした取り組みで協力できるのであれば、一緒に進めていければと思います。以上です。

会 長 今おっしゃった心の動線というのはどういうことでしょうか。

中山委員 例えば、イベントでお菓子を配って終わりではなく、もっと工夫を加えた仕掛けをすることが大切だと思います。親子向けのイベントであれば、親子で何か一緒に活動して、スタンプラリーをしたり、その成果として何かをもらえるようにするとか。食育のイベントであれば、収穫をして終わりではなく、その後も続きがあります。収穫したものをみんなで調理して食べたり、最終的には販売につなげたり、販売でなくても提供する形を取ることもできます。要は、すべての活動に意味を持たせることが大事です。例えば収穫することや調理することが単なる作業ではなく、参加者がその一連の流れを通じて、どんな気持ちや反応、意欲を持ってくれるかを考え、活動をつなげていくことが重要です。単発のイベントではなく、参加者がどんどん前向きな気持ちを持続けられるように、その先を見据えた形で進めていくことが必要だと考えています。

会 長 大変貴重なご意見を色々いただきました。先ほど園とおっしゃったのは幼稚園、保育園どちらでしょうか。幼稚園ですね。普通の市立幼稚園に8カ国の方がいて、なおかつ外国人の方が多いということですね。常総市はたしかに人口約6万人に対して外国籍の方が約7,000人です。割合としてはもう茨城県内トップで全国的にも多い方ですね。それは様々な課題があると思います。外国籍の方7,000人に対して多文化共生推進員21人、そのような目標にするといいと思います。

岡野委員 今回いただいた資料の基本目標1、「結婚出産子育ての希望をかなえる」の中で、14歳までの転入者数が現状193人となっています。この数字についてですが、常総市の教育環境が優れているから転入があるのではなく、仕事や家庭の事情という理由もあるのではないかと思います。また、子育てに関する満足度が現状16%となっていますが、先ほどご説明いただいた中では、守谷市が31%だということでした。私は、この目標値をもっと高く設定すべきだと思います。この数値を目指して、さまざまな施策を積み重ねていくことが重要です。目標は50%以上にすべきだと考えています。次に、2ページの「市街地のにぎわいづくり」についてですが、指標として常総線の乗降客数が挙げられています。しかし、私たちの地域は鉄道よりも車社会だと思います。車での移動が主流ですので、そこを考慮したデータを出すことで、より現実的な数字が見えてくるのではないかと思います。続いて3ページのアグリサイエンスバレー関係についてです。アグリサイエンスバレー構想自体は、農業所得や農業技術の向上を目指していると思いますが、現状の数値としては、市内農産物出荷者数が57名と記載されています。道の駅常総の売上高は25億円となっていますが、農産物のお荷額に関するデータが無いと、出荷者の実際の経済的効果を把握することができ

ません。私としては、出荷者数とともに、その出荷額も明記いただけると、より具体的な施策が見えてくると思います。また、道の駅の来場者数が 300 万人とされていますが、この方々の多くが水海道や石下の中心市街地に回ってきて、市街地のにぎわいを作り出すことが期待されています。しかし、鉄道の利用者数に関するデータがある一方で、車で来た方々がどのくらい市内を回っているかの調査が不足しているように感じます。市内の商店街の売上高などを目安に、車で来られた方々がどのように市内を回遊しているかを調査することも、今後の課題として重要ではないかと思います。せっかくこれだけの方が来てくれているわけですから、もし中心市街地に思った以上に人が来てくれないということであれば、原因を分析して改善策を講じることが求められます。そのうえで、道の駅を中心としたにぎわいをさらに強化していくべきだと考えています。最後にいろいろと提案をさせていただきましたが、1 つ 1 つクリアできるように取り組めばいいと思います。

会 長

大変貴重なご指摘ありがとうございます。道の駅は非常に大規模なプロジェクトであるため、市議会でもおっしゃっているように、周遊性や地域への波及効果の指標が見えづらいという点が少し懸念されます。その指標がないとバランスについて議論が出てくる可能性がありますので、現在のご指摘について、中心市街地に関連する目標や指標を設定することが必要だと感じています。その指標は、アグリサイエンスバレー常総と連動させる形で考えると良いのではないかと思います。今すぐに反映できるものではないかもしれませんが、これから少し時間が経てば、書ける部分が出てくると思います。このプロジェクトには多くの関係者が関わっており、その中には本田さんも含まれていますし、車の動きなども出てくるでしょう。こうした多くの人に関わっている様子を感じられるようにすることが重要だと考えています。

野村委員

全体的な話になりますが、データを自分事として捉えることができるかどうかについて考えると、単位が大きすぎて、市民の方々が自分にとって関係のあるものとして共感できるかは少し疑問に感じました。自分に置き換えられる単位は何かを考えたときに、例えば 3 ページの②道の駅の来場者数に関して、どれくらいの子連れの方が来ていて、どれくらいの方がペットを連れてきているのかなど、具体的なデータが示されると、犬を連れて行きやすいなど、より共感を得やすいのではないかと思います。そういった形で表記を変えることで、市民が自分事として捉えやすくなるのではないかと思います。以上です。

会 長

ありがとうございます。これも非常に重要なご指摘です。300 万と言われても、私の場合 300 万分の 1 だと大したことないなと思ってしまいます。そこで、犬を連れて来られるような施設が幾つもあるサイエンスバレーなので、そういう人にもたくさん来て欲しいとかなんかそういう表現が必要ということですね。犬を連れてくる人と 300 万という指標の関係がよく分からなかったのですが。

野村委員

先ほどの話ですが、実際に道の駅常総に訪れた際に、ペットを連れている方や子連れの方が多く感じました。これは私の実体験からの例として挙げたものです。例えば、お湯むすびなどの施設を利用している方もいらっしゃいますので、少し抽象的になってしまう部分もありますが、その中で感じたのは、強みがあまり見えてこないという印象です。こうした具体的な例を通じ

て、施設の魅力や強みをもっと明確に感じられるようなデータや表現があれば、市民にとってもより共感を得やすいのではないかと思います。

会 長 来場者 300 万人という数字だけを見ると、ただの大きな人数に感じてしまいましたが、その背後にいる多様な人々―例えば家族連れや特定の施設を利用している方々―を意識した表現ができれば、もっとリアリティが増して、身近に感じられると思います。数字だけでは、民間のノウハウでイベントを開催して人を集める、どこでも見られるパターンのように感じてしまうので、常総らしさを感じさせる、人々の集まり方やその特徴を表現できると、より個性的で魅力的に感じられるのではないのでしょうか。

野村委員 今の状態を見ると、常総市がすごいという印象はあるかもしれませんが、結局それで終わってしまうような気がします。国や県の目標を達成するために具体的にどんな取り組みを行ったのか、その過程を示すことで共感を得ることができると思うのですが、現状ではただの観測データとして数字が並んでいるだけで、血の通っていない印象を受けます。自分事として共感を得たいのであれば、心の距離があるように感じてしまいます。

会 長 確かに 300 万人という数字は大きすぎて、少し抽象的に感じられますよね。例えば、平日の特定の時間帯はめちゃくちゃ空いていて、お得に利用できるとか、そういった具体的なデータがあれば、もっと身近に感じられると思います。例えば、月曜日の午前中は実は平均して 1 時間に 30 人しか来ていない、というような情報があれば、その時間帯に行けばゆったりと楽しめるとか、利用しやすいポイントが分かるので、もっと具体的な提案ができるんじゃないかと思います。数字だけでなく、手元で感じられるデータを示すことで、よりリアルで共感を得やすいものにできると思います。

事務局 道の駅の店内には AI カメラが設置されており、来場者の年代や性別などのデータを分析しています。ただ、ペットに関してはカウント方法が難しいという課題はありますが、野村委員が仰ったように、若い方々でも自分ごととして捉えられるような仕組みを考えていきたいと思っています。

菊池委員 総合戦略に KPI や数値目標を盛り込むのであれば、いくつか挙げられている目標に対して現状値や目標値を入れる作業に入っていくと思います。その目標については、一般的に客観的に見て、それが高いハードルか低いハードルかが分かると、チャレンジすべき項目か、それとも安易に達成できる項目かが見えてくると思います。私たちも民間企業として、特に商売において数字は切っても切れない関係ですので、半年でいくら、1 ヶ月に 1 回、場合によっては 1 日ごとに、~~—~~そこまで見ていなくても、日々目標と戦っている状況です。目標設定をするにあたって、難易度が高い目標にチャレンジしたいという人と、低い目標で楽にクリアしたいという 2 通りがあります。ですので、この目標項目については、どの程度のハードルを設定しているのか、色分けして示すと、より理解しやすくなるのではないかと感じています。川島先生が最初におっしゃった通りです。例えば、最初の指標は現状 193 人で、これを 200 人にするという目標の場合、その +7 人が高い目標かどうか不明確です。また、例えばゼロを目指す

という目標でも、それが全国的に見て多くの地域でマイナスである一方、常総市がゼロを達成することで、他の地域と比べると高い目標となる場合があります。ですので、目標がどのような背景に対して設定されているのか、他の地域や状況と比較して、目標の高さを示すとよりわかりやすくなると思います。目標が達成されなかった場合でも、それが高い目標だったという背景があれば、その判断が納得しやすくなります。こうした色分けを行うことで、より現実的で理解しやすい目標設定になるのではないかと考えています。以上です。

会 長

目標設定の考え方についてですが、すべてを必ずしも 100% 頑張らなければならないというわけではありませんよね。ただ、その考え方を見せ方次第で、もしかしたら“怠けている部分”があるように見えてしまう可能性があるのも、その点は難しいところだと思います。先ほど、子育て満足度に関して岡野委員から『50%を目指してはどうか』という提案がありましたが、その目標が高いのかどうかはちょっと分かりません。でも、例えばこの辺の地域の方々だと、もし流山市を超えることができれば、かなり響きますよね。常総市が流山市を超えたとなれば、みんな注目すると思います。できるかどうかは別として、そういった『分かりやすさ』が必要だと感じます。直感的に理解できる目標設定があったほうがいいと思います。とはいえ、時間も過ぎてきたので、そろそろまとめなければなりませんが、ここまで委員の皆さんから多くの意見をいただきました。枠組みに関わる議論としては、まず『子育て満足度』を数値目標として追加したほうが良いのではないかという意見があり、構成を少し修正する可能性があるのではという話がありました。それから、各指標の値が本当に適切なのかという点もありました。例えば、セミナーの回数を指標にするのが妥当かどうかなど、すでにかなり擦り合わせてここまで来ているので、変更は難しいかもしれませんが、今日の議論は市民目線で見たとときにどう見えるかという重要な視点を示してくれたと思います。ですので、この議論を担当課の方にも伝えていただいて、単に回数だけではなく、参加人数や参加者がその後どんな行動に移したかなど、成果に近い形で測れる方法も検討していただけると、さらに良くなるのではないかと思います。また、そもそも数値自体を決めなくても良いのではないかという問題もあります。これについては、すぐに結論を出すのは難しいかもしれません。前田委員、どうぞ。

前田委員

12 月にパブリックコメントを実施しないと、議会に間に合わなくなってしまうので、これからスケジュールが非常に詰まっている状況ですね。そこで、あえて現時点では KPI や数値目標を盛り込まずに進めてみるのはどうでしょうか。具体的には、このメンバー、総合戦略会議のメンバーの賛同を得たという注釈を付けて、現時点では KPI を設定しない形で進めるんです。それから、1～2 年後にきちんとした KPI を設定するという形です。その際、これまで出た意見を参考にしながら、2 年目以降にしっかりと KPI や達成目標を定めるという進め方はまずいのでしょうか？もし、この場でコンセンサスがうまく取れるのであれば、そのような方向で進めても良いのではないかと考えています。

事務局

事務局といたしましては、企業版ふるさと納税とかの税制措置を受けられなくなってしまうので、国の総合戦略における策定の手引きに基づいた対応が必要になるというのがございます。それからパブリックコメント、意見募集のときに、指標を載せる載せないかどうかは、議長にご判断いただければと思うのですが。

会 長	この場で全てを決め切らなくてもいいという意見もあります。一方で、何か制度を動かそうとすると、やはり一定の基準や指標が必要だという現実的な側面もあります。そのため、ここではかなり柔軟に対応することができるという意見も出ていて、必ずしも今すぐに決めなければならないという前提にしなくても良いのではないかという考え方もあります。また、市役所としては補助金を受けるためには一定の基準が必要になる場合もあるので、その点は現実的にきちんと整理しておく必要があります。一方で、柔軟に対応できる部分については柔軟に進めていくことが重要だと思います。その微妙なバランスをどう取るかがポイントですね。もしご意見があれば、ぜひお聞きしたいと思います。柔軟な対応ができる範囲で進めていくのが良いのではないかと思います。完全に決めずに出すという形だと、受け入れが難しくなるかもしれないので、値についてはこれから調整していくべきだと考えています。
事務局	一応内部でKPIの検討をもうちょっと念頭に置きつつも、指標、数値については一旦入れさせていただきつつ、今後の見直し等も含めて検討するということで、仮に設定させていただくという内容でもよろしいかどうか調整させていただこうかなと思います。
会 長	制度上の制約が何かあって一旦決めなきゃいけないとすれば決めたほうが行政として動きます。それに対してただこの委員会としては、フレキシブルにもうちょっと直したほうがいいんじゃないかという意見があったということですね。
玉置委員	私は KPI を決めるべきだと思います。なぜ決めるべきかという、これをやります、投資しますという場合に、KPI がないとその投資が成功か失敗かがわからないからです。もし KPI なしで進めると、市議会の皆さんも判断がつかないと思いますし、役所の方も、実務を考えたときに、おそらく担当課に渡した時点で KPI を決めることになると思います。その手間をわざわざもう一度かける必要があるのかという点で、私は KPI を最初から決めて進めた方が効率的だと考えています。お考えは理解しつつも、私は KPI を決めた方が良いという立場であることを、あらかじめ発言しておきます。
秋田委員	これから総合戦略を策定した後、具体的にアクションを起こしていくと思います。現状では、指標がアクティビティ、アウトプット、アウトカムといった異なるレイヤーでバラバラになってしまっているように感じています。このような状態では、各ステップがどのように連動しているのかが見えにくく、戦略が実行に移されたときにスムーズな進行が難しくなる可能性があります。アウトプットを考える上では、まず問題を細かく分解していく必要があります。そのために役立つツールの一つとして、ロジックツリーという考え方があります。ロジックツリーは、複雑な問題を体系的に整理し、問題の構造を可視化する方法です。これによって、アクションとアウトプットがどのように関連しているのかが明確になり、より効率的に目標に向かって進むことができます。私としては、まずこのロジックツリーを活用して、問題を可視化し、その上でアクションとアウトプットがうまく連動するようなフレームワークを作り上げることが、戦略を実行に移す上で非常に重要だと考えています。

- 会 長 これは行政で使うロジックモデルの話ですね。インプット、アクティビティ、アウトプット、アウトカムといった形で、当然多くの人が考えていることだと思います。行政だからこそ、ある程度標準化されている部分があると思いますが、秋田さんの意見とは少しずれる部分もあるかもしれません。この話はレイヤーがちょっと上のレベルなので、具体的なインプットとアウトカムが連動するツリーをきれいに描けるというわけではないと思います。ここでは、完全に繋がらない部分が多いかもしれませんね。ただし、ご指摘の通り、それぞれの指標がアクティビティであったり、アウトプットであったり、アウトカムであったりすることは認識しておく必要があります。それはあくまでアクティビティであって、アウトカムまではまだ少し時間がかかるという理解が必要です。アウトプットだからこそ、最終的にアウトカムを目指すべきだという性質の理解は、秋田さんが指摘された通り重要です。ロジックツリーで全体を体系的に整理するのは、事業単位でやっていることが多いと思いますが、個別の予算の細かい部分になると、ここのレイヤーでそれをやるのは、ちょっと整理が難しくなるという気がします。佐賀委員はいかがですか。
- 佐賀委員 私が気になったのは、14 ページの「教育環境」についてです。国際的な社会づくりにおいては、英語教育だけでなく国の紹介も重要だと思います。常総市には 50 カ国くらいの方が住んでいるとのことですが、もし子供たちにその国々を紹介できれば、もっとグローバルな視点が育まれると思います。言語だけでなく、その国の文化や背景を紹介することによって、子供たちの考え方も広がると思います。次に、20 ページの「安心して働く環境」についてですが、外国人の雇用に関して、「インクルーシブ」という言葉が出ています。外国人向けのトレーニングに関して、言語だけではなく、文化的な誤解を減らすための教育も必要だと思います。日本文化に関するマナーなどを理解してもらえれば、勘違いも少なくなると思います。それを踏まえて、23 ページの「多様な人材が活動できるまち」についてです。現在、常総市には高齢者が多いので、高齢者と外国人の交流の場を作ってはどうかと考えています。それも 1 回のイベントだけでなく、継続的な活動が重要だと考えます。運動や健康を守るためのサークル、居場所の提供などがあれば、外国人もその活動に参加することで、仕事の準備にもつながります。また、高齢者は楽しく過ごせる場所として利用でき、文化体験（例えば、陶芸や蕎麦作り）を通じて、文化理解も深まります。このような活動を通じて、インクルーシブな地域社会が作られると思います。以上です。
- 会 長 大変重要なお指摘ありがとうございます。教育や雇用、高齢者対策といった分野では、全てにおいてダイバーシティやインクルーシブの考えが関わってくると思います。ですから、特定の分野だけでインクルーシブや国際イベントを行うという問題ではなく、あらゆる場面で言葉や文化の問題は発生します。外国人住民が 7000 人もいれば、日常的に色々な場面でその問題は出てきます。例えば、子育てや高齢者対応など、各窓口で多言語対応が求められますし、もし何かトラブルが発生した場合は、すぐに誰かが駆けつけてサポートするという体制が必要です。そのような心構えがないと、茨城県で最大の外国人比率を持つ自治体としては、インクルーシブがあらゆる面でも出てきても良いのではないかと思います。それくらいの覚悟があれば、先ほど話したような多文化共生推進員の人数に関する問題も、全然違うスケールになってきます。そうすると、予算が取りやすくなり、実際に必要な取り組みが進むと思います。その結果として、このような環境の中で育った子どもたちや高齢者が、お互いの理解と共感を深め、人間的に豊かになるのではないかと思います。すでにかなり時間が過ぎてしまい、申し訳ございません。今日の議論を踏

まえると、KPI をどこまで作るかという問題について、常創戦略課の皆さんがご苦労されていると思いますので、今日の意見をしっかりと踏まえた柔軟な対応をお願いしたいと思います。また、鈴木さんからご指摘がありましたが、パートナーを巻き込んでいくことが重要です。KPI を一緒に推進してくれるようなパートナー（例えば自主防災組織など）を巻き込むことで、協力していく動機付けが生まれます。それに、総合戦略の中で書かれているメンバーというのは、実は大きなステータスであり、そのことがやる気を引き出す要因にもなります。『一緒にやりましょう』というメッセージが、実際には力になるのではないかと感じます。今日の議論を踏まえて、KPI がどういった形で進んでいくのか、さらに必要なコメントをいただければと思います。それでは、最後に「その他」の項目についてですが、何かご意見がある方はいますか？ ないようでしたら、事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございます。

事務局

本日は忌憚のないご意見、ご提案をいただきまして誠にありがとうございました。次回の日程につきましては、2月の6日金曜日午前10時から場所は今回同様、議会棟2階の大会議室を予定しております。恐れ入りますがご都合のご調整よろしくをお願いいたします。本日の議事はこれですべて終了となります。本日分の委員報酬は報酬、報酬辞退の申し出いただいた方を除きまして、条例に基づき、各自ご登録いただきました講座に後日お振り込みさせていただきますのでよろしくお願いいたします。以上をもちまして第3回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

※事務局追記 次回会議日程は、会議後に日程変更が生じ2月13日(金)へ

(15時23分 会議終了)

上記の議事の正確なることを証するためここに署名する。

令和8年 3 月 31日

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

会 長 川 島 宏 一

署名人 鈴木 干 彰

署名人 前 田 正 文